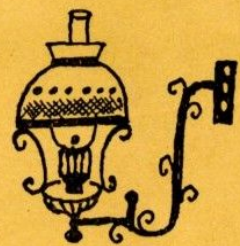


光の矢

四幕

付 M・R・A アジア大会見学記

実業之日本六月一日号より



特別読物



アメリカにいる日本の青年男女が、日本の現状を心配した。汚職に腐敗した政界、財界、乱れた男女の問題、このままでは日本はどこに行くのか。変貌する国際場裡において落伍者になりはしないか。彼らはアリゾナの砂漠に出かけた。そこには道徳再武装を提唱するフランク・ブックマン博士がいる。博士と相談して四人の男女は四日かかって一つの劇を書きあげた。派閥と利権におどる政治家、それに連がる悪徳実業家、汚職、さらに家庭平和の敵、お妾の存在この四つの致命的病根を撲滅してこそ、日本に明るい社会が生れ、国も発展すると考えた。こうしてこの四つの敵を攻

撃する武器が「光の矢」という劇になった。その人たちは渋沢雅英（渋沢敬三氏長男）妻房子、木村利根子（東京銀行監査役木村喜八郎氏長女）、関辰二（シベリヤ抑留十二年の元軍人）の四人であり、ロスアンゼルスからは三井澄子（三井物産取締役三井高篤氏令嬢）ほか三人の人がこの運動に参加した。八人の男女はこの「光の矢」の脚本をたづさえてさる五月五日、空路日本に飛んだ。こうして、「光の矢」はM・R・A大会の大津滋賀会館や麴町の都市センターホールで舞台上に上演されたのである。自作自演のこの「光の矢」はいま、大きな反響をよんでいる。

光の矢

澁沢雅英作

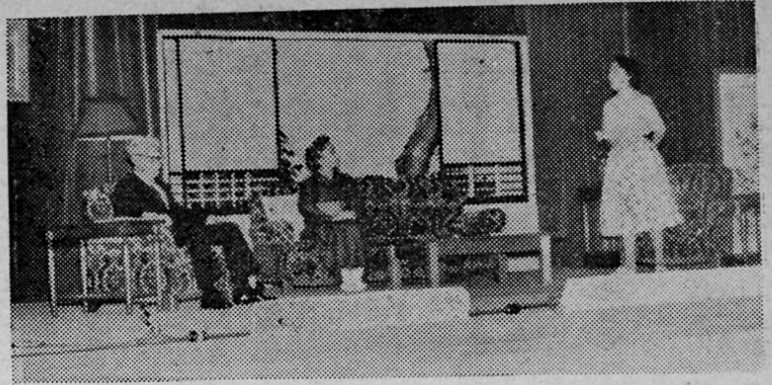
第一幕

実業家山岡家の応接間。長男一郎夫婦が朝のお茶をたのしんでいる。

栄子　ねえ、あなた、今度の和子さんのお見合のこと、どう思うの。相手はお役所の方であなたが一番よく知ってるんですもの。
一郎　うん、あれはよく出来るし、前途有望な男だよ。

栄子　でも和子さんが、余り乗り気じゃないんで困てるのよ。
一郎　なに、和子のは相手がどうかというんじゃないかと、見合そのものが気に入らないんだろう。

保存用



和子「お父さまはどうなの、新橋に桃太郎さんと金太郎さんとか…」

栄子 そうかも知れないけれど、お母様も御心配なのよ。何しろお父様は、毎晩宴会でお帰りが無いでしょ。

一郎 このごろは大分忙しいだろう。何しろ立役者になつて来たからな。

栄子 このごろお父さまは血圧も高いつていう話だし、どうして、あ

あ宴会をやらなきやお仕事が出来ないでしょう。

一郎 それは日本のお国柄で世の中がそう出来上つてゐるんだから仕方がないよ。(ポケットから切付を出す) ああ忘れていた。これを貰つたよ、一緒に行かないか。

栄子 あら、ポリシヨイバレー、まあ素敵じゃない。誰からお貰いになつたの。

一郎 業者さ。沢山持つて役所に来るんだよ。栄子 ありがたいだ。大丈夫なの、そんなもの貰つたりして。今朝もなんか新聞に出てたんじゃ無い、ほら。

一郎 ああ、これは農産省だろ、俺の方は関係ないよ。栄子 このごろは随分汚職が多いわね。

一郎 うん昔から事業と政治は持ちつ持たれつだからなあ。

栄子 まあ、いやねえ、局長クラスに波及ですつて…。

山岡登場

一郎 (立ち上つて、目礼)

栄子 あら。お父様、お早うございます。

山岡 (うなづいて坐り、新聞を取り上げる) 栄子、木村を呼んでくれ。

栄子 はい (出てゆく)

山岡 おい一郎、どうした、長島に話しをしたか。

一郎 駄目なんですよ、お父さん。昨日は、大臣は一日中国会を駆けつりまわつていて、局長会議にも帰つて来なかつたんですよ。

山岡 困るなあ、こつちは急いでいるんだ。長島の方を早く固めないと見通しが立たんじやないか。今日は是非うまくやつてくれ。

一郎 まあ、出来るだけ努力してみますよ。(木村が入つて来て後に立つている)

木村 社長、お早うございます。

山岡 うん。

一郎 木村君、君のところの秘書課長はなかなかゴークツだね、昨夜はおそくなつて参つたよ。

山岡 なんだ、森山と呑んだのか。誰が一緒だったんだ。

一郎 官房次長と文書課長ですよ。

山岡 どこへ行つたんだ。

一郎 次長は、お座敷だけで帰りましたけど、あと新橋へ行きましてね。文書課長は随分いい機嫌でしたよ。ああもう時間だ。じゃ失礼します。

山岡 先刻のことは頼むぞ。

一郎 (退場)

山岡 おい、あれは、どうなつた。

木村 はい、森山と打合せて先方に伝えておきました。

山岡 うん、よし。

木村 金属工業の株主総会通知が来ております。十五日、工業クラブだそうです。経営者協会の定例会合が十六日二時でございます。

山岡 出席。

木村 はい！ 日中貿易協会の企画委員会、明日三時から緊急会議を開くそうです。

山岡 なんだ。

木村 中共側の申し入れについて討議するため、特に

登場人物

山岡 健蔵 六十五才

妻 よし子 六十才

山岡 一郎 三十二才

妻 栄子 二十六才

山岡 和子 二十一才

木村 俊介 三十二才

杉原 源三 四十五才

佐藤 五郎 四十二才

山岡産業株式会社社長 (渋沢雅英・渋沢敬三長男)

妻 (木村利根子・木村喜八郎長女)

山岡 (前川直弥)

妻 (高橋俊子)

山岡家の娘 (三井澄子・三井高篤令嬢)

木村の秘書 (楊英夫)

自由党ブレイントラスト (関辰二)

社会民主党議員 (伊勢田富二)

御出席を願いたいそうです。

山岡 しょうがない。出よう。

木村 はい、かしこまりました。

山岡 おい、ところで杉原からは昨日は連絡があつたか？

木村 いいえ、何もございません。

山岡 おかしいな。昨日は自由党本部にいたつていたがな。

(電話が鳴る。木村受話器をとる)

木村 はい、はい、わかりました。(山岡社長に) 社長、労働部長が組合の動きについて、一寸お話ししたいと云つておりますが。

山岡 (受話器をとつて)

もし、もし、やおはよう、うん うん。

なに残業？ 冗談じゃない。仕事もしとらんのに。先だつてあれだけの金を出してまよめたばかりじゃないか……うん。そんな馬鹿なことがあるか、駄目だ、駄目だ。うん、何に扇動されとる？ うん、うん!! なに誰？ 山田？ そいつがくさいというのか。うんよし、話はわかつた。弱気を出しちやいかなぞ、うん、無論だ、うん。(受話器をおく)

(木村に) 実際、組合という奴はうるさくてかなわん。下手に出れば出るほどつけ上つて、こつちの弱味をいつて来やがる。全く泥棒みたいな奴等だ。

(妻、よし子登場)

よし子 あのお見合の予定はあさつてだというのに和子がまだ渋つているんですよ。あなたからいつて下さいよ。

山岡 なんだ、何を渋つているんだ。あれはお前、親爺は東亜銀行の総裁で長島からもとくに推せんして来た男じゃないか。一郎も知つてるし、玉の輿じゃあなつか。

よし子 あたしは朝から頭がわれそうに痛いのに、あなたは夜はお帰りが無いし、困つてしまふんですよ。ちようど今、そこにいますからあなたから話していただけじゃありませんか。

山岡 うんうん、話してみよう。おい和子!

(木村すぐ出て行く)

和子 なあにお父様、お見合の話でしょう。あたしはご免よ!

山岡 なんだその言い方は、何が気に入らないんだ。

和子 何だか知らないけれどとにかく興味がないの、悪いけど。

山岡 興味つてお前、あの男は……。

和子 知つています。東亜銀行の総裁の息子で東大出の秀才で、商工省のホープだつて仰言りたいんですよ。

よし子 和子、お前だれか他に好きな人でもあるんじゃないのかい？

和子 いいえ! とりたててないわ。

山岡 和子、お前それは少し我儘じゃないか。お前のためを考えればこそ、長島だつて大臣で忙しいのにわざわざ連絡をとつてくれたりしているんだ。お母さんを余り心配させるんじゃないぞ。

和子 お父様、失礼だけど、あたしは政略結婚の犠牲になるのは真平よ。お母様に心配かけるなつて仰言るけど、お父様はどうなの？ 新橋に桃太郎さんとか、金太郎さんとかいろいろのがあるじゃありませんか？

(桃太郎さんの歌を歌いながら出てゆく)

山岡 なんだ、あれは親に向つてとんでもない奴だ。

お前がくだらないことを言つてきかせるんだらう。もう少し子供の教育に責任をもつてもらわなけりや困るじゃないか。

よし子 何をおつしやつてるんです。あなたのように

勝手な事ばかりなやつて、子供に要求したつて無理ですよ、あなたから改めていただかなくちや。

(木村登場)

木村 社長 お話中ですが、杉原さんがお見えになりましたが……。

山岡 おお杉原か。すぐここへ通せ。

杉原 やあ、社長、お早うございます、いいお天気で、奥さん何時もお世話になりました。

(椅子にかける)

よし子 いいえ、こちらこそ。

(よし子退場)

山岡 (木村に) 君は退つていてよろしい。

(杉原に) どうだその後の様子は、まだきまらんかな。杉原 まだです。昨夜もおそく幹事長から電話があつて、昨日の閣議では、汚職問題以外は一切討議出来なかつたといつてきました。いよいよ一触即発の状態になつて来ました。

山岡 困るな、早くしてもらわんことには……。こつちは、先週中に閣議決定があるものと思つて、工場はすつかり手をあけて、待つとるんだ。その間の人件費も莫大だし、おまけに組合がひつきりなしにごちやごちやさわいでおつて、どうもならん。一つきつく言つてやつてくれ。こつちもそれ相当のことはしているんだからな。

杉原 わかりました。これは大丈夫です。二、三日内でしょう。ところで社長、疑獄ですが、今度はなかなか大がかりのようです。検察庁も大分、本腰を入れていて内閣でも一人二人はまぬがれないというもつぱらの噂です。

(栄子がお茶を持つて来る 二人、話をやめる)

杉原 やあ! お嬢さん、長島大臣には何時もお世話になりつばなしでお元気ですか。

栄子 はい、おかげさまで。

(栄子退場)

山岡 長島は大丈夫だろうな。

杉原 いや先生はまだどこにも名前は出ていません。それに御承知のとおり要領のいい人ですから大丈夫でしょう。それより社長、外務大臣が危いという話です、山岡 なに？ 石本がかい？ 一体何をしたというのだ。あれは有名な堅造じやないか。

杉原 人と言うものは見かけによらないものです。造船会社熱海の別荘を買わしたそうです。輸出船舶の口でもきいたのだという噂です。

山岡 ふふん。

杉原 そこで党内では事態收拾のため、この際ちよつとでもくさいものは、一せいに退陣させて気分一新しようという動きになつてきました。その連中がかつごうとしているのが原田、長島の線です。適当なきつかけに内閣大改造をやつて、原田を総理、長島を副総理兼外務といくか、またことと次第によつては長島内閣の線も出ないことはありません。社長と長島さんとの特別の御関係もあるし、早速御報告したわけです。社長が内閣に出られるチャンスもあるわけですからな。

山岡 ふん、そう簡単に行くかな。他の党内の親分連中がなかなか言うことを聞かまいて……。

杉原 今度の疑獄せん風と改造気構えで長島株は最近えらい値上りです。ここでひとつまとまつた金を見せれば、陣笠連中は自然に集つてくると思ひます。

山岡 こつちもそうは金はないからな。一体いくら要るんだ。

杉原 とりあえず長島に二千五百万も持たしてやれば大分違うでしょう。

山岡 長島は乗気か？

杉原 野心のない人間はないものです。長島さんもこ

こまで乗りかかつた船ですから、副総理、外務ぐらいはやらんことには、おさまりがつかないでしょう。

山岡 ところで中共貿易の方は大丈夫だろうな、変なときに変なことをされると元も子もないからな。何もおかしな動きはないかね。

杉原 今は党も内閣も疑獄で手一ぱいで、誰も中共のことなど考えていません。たとえ考えていたとしても、今さらとりやめるわけには行きませんし、目下のところ心配は御無用でしょう。では失礼します。

(杉原立つ)

(山岡ちよつと考えている)

山岡 木村、木村

木村 はい。(入つて来る)

山岡 社会党の佐藤に電話してくれ。

木村 はい(ダイヤルを回す)もしもし、議員会館ですか？ 佐藤先生を御願ひします。え、え社会民主党の左派の佐藤先生です。あつ、先生ですか？ こちらは山岡の秘書でございますが、一寸、おまち下さい。

山岡 あつ、！佐藤君！ や、やあ、なあに、つまらんもので。どうですか、見通しは……うん、それはいい。ところで佐藤君、実は今朝、工場からの情報で組合が又さわいでいると云うことなんだが、どうもしつこくてやりきれん。労務部長の話だと全国労評の支部の山田という男が裏にいて糸をひいているらしい。一つ調べかたがた口をきいて貰えんかな——うん、山田だ——わしもあんたをはじめ社会民主党にも随分義理はつくしているつもりだし、全評はとかくわしのことを悪くいうがわしは相当な寄付をしとるんじや、少しは礼儀ということをわきまえて貰いたいもんだ——うん、そう、よろしくたのみませ。や、じゃあ。

(木村に)今朝は倉庫会社だな。

木村 はい十時半から役員会がございます。御昼食は

本曜会、工業クラブ正十二時開会でございます。

山岡 夜は銀行だな、そろそろ出かけるか(電話鳴る木村とる)

木村 はい、はい。は、少々おまち下さい。社長、御電話です。

山岡 誰だ

木村 は。

山岡 ああもしもしなんだ、おまえか！ 駄目じやないか(木村に出て行けというサインをする)家に電話をすることはまかりならんと、あれほど申しわたしたじやないか。一体どうしたんだ。なにをばかなことを。わしが忙がしいのはわかつてるじやないか。そうそうおまえのいうようにばかりなつておられんよ。なに十五万円？ 踊りのおさらいだ？ そんなにいいのか。この間、あづま踊りに出たばかりじやないか。うん、まあ、よろしい、やつてもよろしい——いやだめだ、今夜は銀行を招んどのからな。なに？ 午後？ ふうん、まあ努力しよう。四時だな、よしよし、よしよしわかつた、わかつたよ。(電話を切る)

(幕)

第二幕

同じ応接間。数日後。午後八時半、和子ソファーにすわつて雑誌をよんでいる。よし子編物をしている。

栄子入つてくる。

栄子 お母様、明日、田園調布の叔母様がお見えになりますけど、戴きものこれでよろしいかしら、マロングロッセなんですけど……。

よし子 丁度いいわ。うちの姉は甘いものが好きだから……。

栄子 和子さん何よんでいるの？ あら変なもの、

またお兄様の部屋から持つて来たんでしよう。

和子 うん。

栄子 一郎さんは役所の帰りにこんなものばかり買つて来るんですのよ。

よし子 どれどれ一寸お見せ(週刊雑誌を和子渡す)

よし子 まあなんていやらしい、どうでしょう、この写真。

和子 お母様そんなのでびつくりしているのは時代おくれよ。電車にでも乗つてごらんさい。若い人達はみんなこんなばかり読んでいるわよ。

よし子 まあ、なんてひどいんでしよう。こんなものがあふれているようじゃ、世の中が悪くなるのも当たり前だね。

和子 あらお母様、お父様が出ているわ。これ、もうお読みになつた? 財界プロフィール・山岡健蔵だつてさ。

栄子 あらどんな事が書いてあるの?(のぞきこむ)

和子 財界実力派——山岡健蔵。機を見るに極めて敏最近数年間の八面六臂の活躍ぶりは驚嘆に値する。花柳界での進出振りもめざましく、かくしだてをせず、極めてオープンで総花式なあそび方が一種の魅力になつていいる。何よ、一体これは……。

よし子 その雑誌には随分お金をやつてあるのに、ひどいもんだね。あたしという者がいるのに、どう思っているんだらう。ああ頭が痛くてかなやしない。

和子 長男は長島商工大臣の女婿で、政府との関係はきわめて深い。目下内閣危機に際して長島株の上昇が伝えられている折から、山岡産業の将来はきわめて嘱望すべきものがある、だつてさ。お姉さんどう? 一寸した政略結婚だつたわけね。

よし子 和子口を慎しみなさい、そんなこと言うもんじゃありませんよ。



(沢 英 氏)

和子 言うもんじやない?

こんなに色々な雑誌が勝手に

なことを書き立てている

時に、あたし達だけ口を

慎しんだつて始まらない

じやないの。あら長島の

小父様のことも出ている

わ。明治政界に雄飛した長島

重吉の嫡孫でいゆる毛並のよい政界人、あたりのや

わらかさと素直さは一種独特、そのくせ中々芯の強い

ところがある。有名な映画女優近江みゆきとの長年の

交情は広く知られている、ですつてさ。小父さまもき

つとお金を払つた組ね。小母さまがこんなの読んだら、

どうお思いになるでしょう。

栄子 家の母はもう十年も別居同然だから割切つてい

るわ。

和子 ひどいもんだね。どこの家でも同じね。お姉さま

しつかりしなきや駄目よ。

よし子 男つてものはわからないからね。まあ用心に

越したことはないよ。

(杉原登場する)

杉原 お邪魔します。

栄子 あら杉原さん、一寸も知らないで失礼しまし

た。だれも御案内しなかつたかしら?

杉原 いやいやどうぞお構いなく。

栄子 まだ父は帰つておりませぬのよ。

杉原 承知しております。今夜は一寸奥様方にお耳に

入れたいことがあつて……。

よし子 おやまあ! まあおかけになりませぬ? 栄

子お茶を願ひ。



(三井 澄 子)

御無理はないが大変御立腹で御主人のされることには一切非協力と言う状態です。

杉原 二體貴方は何をおつしやりたいんです?

杉原 長島さんが、今度重要な地位につかれる。特に外務大臣副総理というようになると実質はとも

よし子 何か悪いことでもあつたんでしようか。

杉原 いやいや別に御心配なことではありません。時に和子さんのお見合のお噂を伺いましたがいかがでございました。

よし子 いえ、あれは和子がいやがりましたねえ。

(栄子お茶を持つて登場する)

杉原 外でもありませんが、疑獄事件が発展して、い

よいよ自由党内閣の命も風前の灯となつて来ました。

全く困つたものですが、この際民主政治の危機をすく

うものはこちらの社長と若奥さんのお父上長島商工大

臣以外にはないと言うのが、世間一般の空気になつて

来ました。

よし子 まあでも宅は大丈夫なんでしようか。

杉原 今の実業界政界の大人物で叩いてほこりの出ないものは恐らく一人もいないと思います。

(木村登場)

木村 只今帰りました。

栄子 あら、お帰りなさい、どうぞこちらに……。

よし子 それで私共になにか御相談があるのですか。

杉原 はあ、特に若奥さまにお話があるのですが……。

栄子 まあ、なんですのよ。

杉原 長島さんは現在では台町にはおられず、近江

さん方におられるそうです

ね。そしてお母様は勿論、

御無理はないが大変御立

腹で御主人のされること

には一切非協力と言う状

態です。

かく、表面上、現在のままでは困る。そこで何等の形で奥様との間に御了解が成立つよう、若奥さまの御協力をいただきたいのです。

栄子 まあそんなこと。父が完全に近江さんとの関係をたつて台町に戻るといふのならともかく、さうでなければ私から母を説得するなんてことは出来せんわ。もともと母は父の政治生活をよろこんでいないのですから……。

杉原 しかし若奥さん、これはあなたが親孝行をなさるいい機会ぢやありませんか。お母様も簡単にはうんとおつしやらないかも知れないが、いざれはあなたに感謝なさる日がくるかも知れません。またお父様はこれによつて、国の運命を背負う本当の大政治家になるわけです。

(すこし間をおいて)

一方また、ここでお母様が我をおはりになると、国に累を及ぼすことになり、またお父様にもどんな困難が起るかわかりません。疑獄というものは政治家にとつての命取りですから、さう簡単にお考えにならない方がいいと思います。

(沈黙)

木村 失礼ですが一寸。一言言つてもいいでしょうか。

(杉原いやな顔をする)

木村 この数日間、申上げようと思つていましたが、実は先日、私は学生時代の友人の家に招かれて行きまして。そこで私は思ひかけないものを見ました。なんと言つたらよいのか、とにかくこの混乱し切つた世の中に對するたつた一つの解答を見たような気がしました。私の友人は昔と全然違つた人間になつていました。彼は私に欠けている新しい素質をもつていたので。そして顔つきまで變つていました。彼は幸福なんです。彼は人間の生活を変えるひけつとして四つのことを教

えてくれました、それは何といつたらよいか、せんじつめると正直と純潔と無私と愛の四つなんです。私のがんと頭をなぐられたような感じがしました。自分の現在の生活が公私共にどんなにこの四つの標準からかけ離れているかを痛烈にみせつけられたからです。杉原 ちよつと木村君、話の途中だが、それは現在の話題とは関係がないようだから、またあとにしたらどうかね。

木村 私はそれは重大な関係があると思うのです。と言うのは……。

杉原 一寸待ちたまえ。われわれの話しているのは原理ではなくて實際なのだ。道徳もいいが現在の苛烈な政情に、そんな古くさいことを言つていると、生存競争におくれるばかりか、落伍してしまふよ。

この話しはやめて本論に移らう。

栄子 杉原さん一寸まつて下さい。あたしは、木村さんのいうことがききたいわ。それから？

木村 杉原さん、私の言おうとしているのは原理ではありません。これはとても實際的なものです、道徳を古くさいとおつしやつたけれど、さう言う考え方がその頃国を亡ぼし、世界の混乱を作つていることが、この頃わかつて来ました。世界をよくしようと思ひながら、自分がよくなるうとしらないものが一番反動的で古くさい人間なのです。今、皆さんが話していられた問題は、日本が今おかれている混乱の縮図だと思ひますね。

(幕)

第三幕

(四、五日後の朝八時。社会民主党議員佐藤五郎と山岡が応接間で話している)

山岡 しかし、あなたがた社会民主党議員は組合関係

もあろうし、自由党の連中ほど要らないだろうと思ふのが常識だがそうは行かんかね。

佐藤 なかなかむずかしいんですよ。特に地方では組合の方針はまとまつていても、個々の組合員は中々そのように動かないし、やはり土地の顔役連中を押えとかなげりや手も足も出ないわけですな。特に私のように執行部については雑用が多くて、選挙区にサービスがおろそかになりますから、どうしても金に頼らざるを得ないんですよ。

山岡 いくら要るんです。

佐藤 ざつくばらんに言つて、百万円ほどなんとかして戴ければ当座の急には間に合ふと思つます。

山岡 うん。私一人でもなかなか荷が重いし、御承知のとおり自由党の人も大分この頃はおしにかけてこれるし、まあ二、三人心当りをあつて御返事しませう。佐藤 お願ひします。なにしろ急いでいるんで、ひとつどうか。

山岡 時に佐藤さん、どうして全労評はうちの工場ばかり目をつけるんですかね。この間あなたに話してもらつて一時はよかつたが、また近頃騒ぎ出しとる。

佐藤 お宅にはいろいろな分子がいて中々簡単にはゆきませんな。

山岡 うちじや全工場一家族と言う方針で、手当も充分やつとるし、厚生施設も完備して、大部分は満足しているのに、全労評がやつてきて一部の不平分子を扇動するんだ。

佐藤 困るのはお宅の工場は全労評の夏季攻撃の目標になつていますからね。

山岡 だから君等に厄介になるわけなんだ。社会民主党としてなんとか手を打てんもんかな。

佐藤 党は何も大きなことは言えませんよ。なにしろ選挙費用をこつそりと握られていますからな。せいぜ

い出来るのは現場の全労評の幹部を当つて見ることで
すな。

山岡 費用はいくらでも出すから、一つやつて見てく
れ。この調子で無茶な要求をつぎつぎに吞まされたん
じゃこつちは破産だ。

(一郎登場)

一郎 お父さん。ああ、佐藤さん。ちよつとお話中失
礼だけど、自由党本部から電話で、石本外相が今朝東
京地検に任意出頭するそうです。

山岡 そうか、いよいよきたか。

一郎 新聞にはまだ出てないが、ラジオは八時のニュ
ースから報道しているそうです。なお詳細わかり次第
杉本から連絡するから、とりあえずお宅にいてほしい
そうです。

山岡 政変だな。しかし石本がひつかかるとは全く意
外だな。信じられん。

佐藤 いよいよ自由党も屋体骨にひびが入つてきまし
たね。

山岡 佐藤君どうなんだ。社会民主党どこまでやる気
なんだ。

佐藤 勿論社会民主政権の樹立といきたいところです
が、しかしここだけの話ですがね。二、三日前の執行
委員会では、今度は余り政権に拘泥しないと言う方針
を確認しました。

一郎 人がいないからですか？

佐藤 ぎつくばらんに言えば、そうですね。だから、
まあ理窟が合えば、妥協の用意ありと言うところでは
よ。

一郎 連立内閣ですか。

佐藤 さあ、どうかな、がたがたの自由党と連立をし
ても始まらないという者もある。微妙ですね。組合関
係の意向が大きく左右するでしょう。

山岡 長島を副総
理外務にして乗り
切らうという動き
があるが、君の見
通しはどうかね。

佐藤 案外いける
かも知れません
よ。長島という人
は妙に評判のいい
男ですね。全労評

あたりでも案外長
島派がいるんだか
ら驚きますよ。

山岡 ふうん、ど
うしてかね。

佐藤 あの人は意
外な人間に受けが
いいんですね。

(電話鳴る)

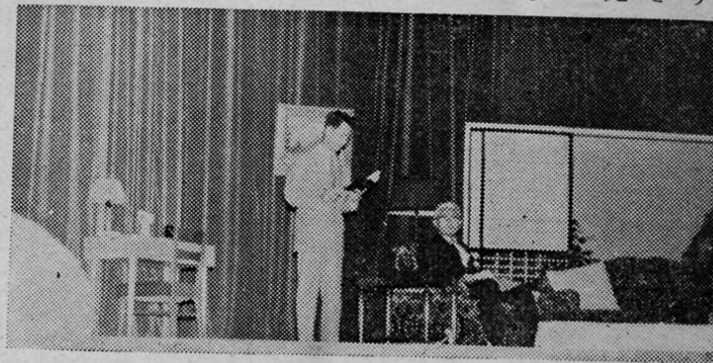
一郎 もしもし、やあ杉原さん、ちよつと待つてね。
お父さん、参謀総長からですよ。

山岡 ちや佐藤君失礼だが、これで失敬します。

(一郎、佐藤退場)

山岡 (受話器を取つて)

やあ、うん、お早う。聞いた、聞いた、その後どうし
た。うん……うん……うん。長島は何と言つた。そう
か、やるか……なるほど長島は案外社民党にも受けが
いいようだな、要領のいい奴だ。……うん……なに？
二千五百万、すぐ要る……。そう急に言われても手許
にそんな大金はないが……まあ出来るだけのことはや
つて見よう。石本の方は証拠が上つているんだな。そ
うかわかつた。また電話してくれ給え。



木村「社長、私はこの御用はお断り致します」

(受話器を置く)

(一郎登場。一郎に向つて)

おい長島はやる意気込みだそうだ。副総理兼外務で推
すそうだ。二千五百万すぐ出せと言うんだ。

一郎 二千五百万？ どうするんです。

山岡 保守革新をとわず、代議士どもは浮き足立つて
いるから、長島支持に転回させるためには、実弾が要
るといふわけだ。

一郎 なるほど。

山岡 これは出さなきゃなるまい、政治にあまり深入
りするのはいやだが、放つといて総辞職解散にもつて
いかれてはどんなことになるかわからん。それにもし
長島が行けるとなると何かにつけてこれは便利だから
な。どうしても当節事業拡張のためには、政治を押し
とかなきゃ、どうにも動きがとれんからな。おい、木村

木村 はい。

山岡 資金課長に電話してくれ。

(木村ダイヤルを回す)

木村 鈴木資金課長願います。社長からです。

山岡 山岡だ、お早う。至急金が要ることがあつて
な。東亜銀行の俺の当座にすぐ振替えてくれ。いい
な、二千五百万だ。すぐ要るんだ。大丈夫だな、よし
御苦労。

(受話器を置く。木村に)

おい、小切手を書いてくれ。二千五百万円、持参人払い
(木村書き、山岡サインする)

山岡 よし。これを大至急、長島のところに届けてく
れ。長島は長坂の別宅にいるはずだ。本人に手渡すん
だぞ、いいな。長坂の方だぞ、あの近江みゆきの家だ。

木村 (山岡の顔をみつめて、返事をしない)

山岡 どうしたんだ。

木村 社長。

山岡 何だ？

木村 社長、私はこの御用はお断り致します。

山岡 なに？ 何だと。

木村 私はこの金を届けることは出来ません。

山岡 何だ、変な顔をして、気分でも悪いのか？

木村 いいえ大丈夫です。社長、私は今まで社長の秘書として、社長の命令にはすべてしたがつてまいりました。しかし最近、私はたとえ上からの命令であつても、世の中には正しいことと正しくないことがあることがわかりました。

山岡 なにをやぶから棒に。そんなことは貴様の知つたことではない。今の内閣の危機を救うのには、これ以外に方法はないんだ。

木村 しかし、社長は、それを本当に国のためにと思つてやつておられるのですか。社長の本当の心の底で正しいことと思つておられるのですか。

山岡 生意気なことをいうな。正しいとか正しくないとか、それぞれの場合によつてちがうはずだ。政治や事業に原則などと言うものはありません。時に応じ、機に乗じて行動する以外にはないもんだ。貴様のような口ばしの黄色い若いものが、とやかく口を出すべきことではないわ。わかつたか。

木村 内閣の危機を救うために社長がお金を使つて、長島さんが副総理という重要な地位につかれる。二時的に内閣は救われるかも知れませんが、お金で買われた副総理に日本を本当に正しい国にするような政治が出来てしまうか。私は法律上このことが罪になるかどうかは知りません。しかし私はこれと同じようなことが日本中で行われていることを知っています。政治家の野心と、実業家の御都合主義の混合です。社長、誰かが立ち上つて、この悪い習慣を断ち切らなければなら

りません。そして私は社長が内閣の危機を救う前に、先ずそういう人間になつて戴きたいのです。

(栄子登場。一郎の傍に行つて座る)

山岡 もうよせ、尤もらしいことを言つているようだが、貴様にはまだわからんのだ。今の状況がどんな緊急なものか、貴様も知つていよう。長島を副総理にもつてこなければ、自由党はつぶれ、国会は解散になつて、社会民主党のさばり、いずれは共産党に國を売ることになる。馬鹿を見るのは何千万の国民だ。

木村 社長、自由党や財界が乱れ切つた私生活を自分勝手な野心や利己主義で動かされているのでは、どうして何千万の国民に解答を与えることが出来るでしょうか。今一番必要なことは右翼、左翼の両方に根強く巢喰つている道徳的腐敗と利己主義に対して戦をいどむこと、そしてこの國のすべての在り方に対する徹底的な大掃除をすることが先決だと思います。社長、そういう私自身、最も大掃除が必要なんです。入社以来七年特に最近三年間は秘書として、一方ならぬ御世話になつていながら、常に社長の機嫌を損ねるのを恐れて、一度も本当の意味で社長を補佐して来たことはありません。自分の生活の安定と会社員としての将来を失うのが恐ろしかったからです。私生活でも、表面は謹厳を装いながら、しばしば友達といかがわしい呑み屋に出かけて、社長や御家族に嘘をついたばかりでなく、この呑み屋の勘定やマージャンの負けをごまかしては会社の接待費につけたことも度々ありました。

つまり窃盗詐欺行為です。しかし自分では、どうせみんなもやるんだからと言つて、良心をごまかして来ました。最高学府を出た会社員が、こんなことをしてどうして日本の國が正しい幸福な國になれるでしょう。社長、私は本当に生れ變つて、全く新しい人間になる決意をしました。今までのことは本当に申しわ

けありませんでした。どんな罰でも受けます。

沈黙

一郎 木村君有難う。君から借りた「人間の改造」と言う本を読んで考えさせられたが、今君の話聞いて始めてその意味がわかつたような気がする。僕も君と一緒にやつてゆきたいと思うよ。

栄子 お父様。私は、今朝早く起きて長島の父のことを考えていました。私は今まで父に対してとても身びいきがあつて、父のことをはつきり見ることが出来ませんでした。でも今朝は何だか、心配になつて来ました。十年くらい前、近江さんの問題が起きる頃から父の様子が変わつて別人のようになつてしまつて、私とても悲しかったのを覚えています。表面は前と同じように磊落な人当りの良い父ですが、何か中味が變つてしまつたような……。この頃父が内閣の重要なポストにつくとかいう話を聞いて、何か良くないことが起るような不安を感じました。父は大丈夫でしょうか。

山岡 さあ俺には一向に變つていようにみえんが、一体、君達は二人よつて長島ポイコットをしようと言うのか。

一郎 長島ポイコットじゃありません。もつと大きいことです。

木村 そうです。社長にもつと大きい仕事をしていただきたいんです。社長でなければ出来ないこと、日本の政界財界の大掃除です。

山岡 一体俺に何をさせようと言うのだ。

(よし子登場)
よし子 あなた大変です。和子がこんな書き置きを残して家を出ちまつたんですよ。

山岡 何だと、和子が……。ちよつと見せろ、(眼鏡をかけて)なんだ『あたしはこの家の矛盾だらけで重苦しい雰囲気にはあきあきしました。お父様の生き方御

道徳的決意と勇氣を持つことが第一歩ではないでしようか。

一郎 うん。全く現在の日本を考へてみると九千万国民のすべてが、利己主義と不道徳のクモの巣にとり囲まれて窒息しかかっている。

木村 そしてその状態を利用して破壊的な勢力がこの国を売ろうとしている。杉原もその一人だし、世界には何千万の杉原がいます。日本は革命の前夜なんです。十年程まえ、チェッコでは政界財界が頽廢混亂し切つて最後まで勝手なことを続けていました。ようやく事態の重大さに驚いて、すべてをかけて戦いはじめた時にはすでに遅く、国が失われていました。

一郎 われわれが必要としているのは、この国の在り方を根本的に變えてしまふような力、何か人間以上の力だ。

木村 そうです。世界には利己主義のために盲目になつていた人を自由にし、人や国の動機を徹底的に変えて光と方向を与えるような力があるんです。平凡な人間にも非凡なことをさせるようなプラスの力です。これは人間が静かに、良心の奥底にひびく声にしたがつた時に与えられるのです。

山岡 成程、確かにわれわれは何か根本的なことをやらなければならぬ。事態は生半可なことではどうにもならないところまで押しつめられている。しかしどうしたらいいんだ。

一郎 じゃあ、その良心にひびく声をきいてみましょうよ。

山岡 うん、よかろう。
木村 社長、紙と鉛筆をどうぞ。うかんだ考えを正直に書きとめてください。

(一同に紙と鉛筆をくばる)

(間)

山岡 おいどうだ、木村、何か書いたかね。

木村 「時はわれわれが考へているよりもずつとずつと遅い。われわれは、今日、人類の歴史始まつて以来、最も危険な、最も暗い時代に突入しようとしている。今立ち上らなければならぬ。自分の罪やすべての欲望を徹底的に捨てて命をかけて戦おう。」

山岡 フーン、俺の書いたのは

「俺の生活は大掃除が必要だ。日本の国も大掃除が必要だ。俺には女もいた。待合政治は日本の命とりだ。今後芸者遊びはびつたりとやめる。他の奴にもやめさせるよう努力する。俺の事業の目的は私益と権力、せいで社員福祉だつた。今後は事業は国や世界のために使う。お前や子供達にもすまなかつた。」

よし子 私はあなたのいい妻になろうと思つてつとめて来ましたけど、結婚後まもなくあなたは転任になりちのみ子の一郎をかかえて知らない町の社宅で、奥さんたちにあれこれいわれ、随分いやな思いをしました。あなたはこの頃から、もう夜はおかえりがなく、他の女の人が出来たんじやないかと思つて、人にはいいませんでしたが、私の心はやきもちとらみで一杯で、今日まで何度死のうと思つたか分かりません。そのたびに子供の顔をみて思い止りました。けれど、和子のいう通り、成程私の頭痛もあなたへのくしみのためだつたかも分りません。今考へてみると、あなたばかりうらんでいた私の心も随分固く冷く、あなたに対しては本当に悪い妻でした。いつもあなたには文句のいい通して自分のことばかり考へていましたもの。それではあなたが、よそに行きたくおなりになるのも御無理はないと思います。今、仰言つたようなお気持ちになつて下さるのなら、私もこれからは心をすつかり入れかえて、本気であなたと一緒にやつて行きたいと思ひます。

(和子登場)

和子 お母さま!

よし子 まア和子マアよかつた!

山岡 和子、おまえ一体どこへ行つていたんだ?

(皆おどろく)

和子 あたし今朝早く家を出て、田園調布のおば様の家に行くつもりで、電車にのつたら偶然お友達に会つたの。お父さんが奥さんと別れて二号さんと一緒になつたんで、この人はヤケをおこしてめっちゃめちゃな生活をしているんです。おまけに十六になる妹さんが、ショックで神経衰弱になつたんですつて。話をしているうちに、私はふつと二、三日前に木村さんのいつたことを思い出したの。皆が他の人に変つてもらいたいと思つてるけど、誰も自分からはじめようとしないうで他の人を待つてゐるつて……。その瞬間、私はにげないで家に帰つて自分から變らなくつちやと思つたの。今の御母様のお話、ほんとに感謝しちゃつたワ。

(電話がなる)

一郎 はいそうです。えつ、うんうんほんとかい!

そうかそりやよかつた。わざわざほんとに有がとう。

(受話器をおく)

お父さん、石本外相は証拠不十分で不起訴と決定したそうです。

山岡 そうか、そりやよかつた。これで当面の危機は逃がれた。しかし、本当の戦いはこれからだ。これが最後のチャンスだ。われわれが事態の深刻さをはつきりとみとめ、共に立ち上る時、日本の国も正しい道義の国として生まれ變つて、アジアや世界の数千億の人達に解答をもたらす、本当の使命を果すことが出来るのだ。

(幕)

医学博士 齋藤文雄監修

特製新版発売!

ベビーブック

愛児の出生記念に、出産のお祝いの贈物に

この豪華版「ベビーブック」を!

生まれたときから入学までの成長の歴史が記入され、写真アル

B6大判箱入
定価 一、〇〇〇円
(送料60円)

長を歴史が記入され、写真アル

中沢経夫著 少年小説日本歴史

全三巻 各二五〇円
上・中新刊 下 32円

実業之日本社・新刊

室生犀星

生きるための橋

名作「生きるための橋」をはじめ、最近一年間に発表された短編七編を収録。巨匠の筆力ますます牙え、独得の詩境にいきなり、室生文学の粋。

二八〇円
下 32円

菊村 到

天皇陛下万歳

文芸春秋最近号で絶賛を博した一〇〇枚の問題作「天皇陛下万歳」ほか五編、新鋭作家菊村到が自信をもつて贈る自選小説集。

二七〇円
下 32円

健康食・治病食・長生食

医学博士 横尾 秋夫著

新しい食物は薬以上の働きをする。健康と治病と長生のために本書を!

二五〇円
下 32円

た。そこでは日本軍人に目の前で両親家族が殺され、やつと逃げ出し、死体置場にかくれているところを発見され、宙ずりの拷問にあつて瀕死の状態にいるところを、米軍に助けられたという人に逢つた。そのヒリピン人は日本人を心の奥底から憎んでいた。その話をきいた雅英さんは誠にすまない心から頭を下げたのであつた。ヒリピン人は憎い日本人にあやまられて、思はず握手の手が出た……そして両者の間に何か暖いものがかよいあつたのだつた……「私が日本人の手を握ろうとは」とヒ

リピン人はいつた。雅英さんはこれこそM・R・Aの精神だと思つたという。

ヨーロッパでも汚職が多い

話を大会の方にもどすと、やがて定時刻が来て、ミーティングが始まる。開会に先だつて若い人達のコーラスが行われる。それがすむと、司会者によつて、遠来の客が紹介され、それぞれ一場のスピーチをするのであつた。

最初に紹介されたのは、さきの英国外交官マッケンジーさん

であつた。三百人程入れる講堂が、世界各国の人々によつていっぱいである。日本の婦人達は美しい振袖を着ている。マッケンジーさんは次のような演説をした。

『現在いかに、人間の改革が要求されているか、ヨーロッパ諸国の汚職政治の現状をみても分かる。ある国では、国会議長が公金を使つて、不道徳な人々と会合をしていたというスキャンダルがあばかれてゐるし、またある国では国会議員が二名、公衆の面前で、不正な行為の指弾をうけ、警察に招喚されたりし

た。またある国の外務大臣の息子は、ある避暑地の海岸でのある映画女優の死と関係があると報道され、またある国の高官は財政資金を使つて不正行為をやつたことが追求されている。このようにヨーロッパの最高指導者は危険な腐敗の中にいる。イギリスには道路掃除の大きなブラシがあるが、かかる大ブラシで人々の心を根本から掃除しなければならぬ。この大掃除はまず自分の心から、他人を非難する前に、自分を掃除することが必要である。その掃除器は、ブックマン博士のあげる

四つの項目である。少数の人々でも、この四つの標準で生きるならば、それは大きく世界にひろがって行くであろう』
演説は勿論、英語で行われるが、参加者の中から、誰かが出て通訳に當つていた。日本語の演説や司会者の言葉は、外来の人々のためにはイヤホーンを通じて、各自の耳もとで、英語に通訳されているのであつた。
マッケンジーさんのつぎに立つたのは、インドの聖雄ガンジー翁のお孫さんラジモハン・ガンジーさんである。今年まだ二十四才だというガンジーさん

は、秀麗な風ぼう、六尺豊かの長身を静かにマイクの前に運ぶのであつた。

『アジア諸国はかつて西欧諸国の帝国主義にじゆうりんされた。いままた新しい帝国主義（共産主義）の恐威にさらされてゐる。いまこそアジア諸国は真に融合して、その恐威を防がねばならない。伝統の違うアジア諸国を融合させるものは、人々が新しい心で生きることである』

眼鏡をきらりとひからせながら語つたガンジーさんについで立つたのは、米科学アカデミーのコーネル博士であつた。

『今後の世界の行く道は次の三つの道しか想像され得ない。一つは全人類が最新の兵器による戦争のために破壊する道、一つは世界が独裁的政權に征服される道、最後の一つは世界的な道義的なルネサンスによる、新しい世界建設への道である。このいづれをとるか、東京やワシントンやモスクワの指導者がきめるのでなく、ここにゐるわれわれが決めるのである。いまや科学は道徳の支配下におかれねばならぬ、その道徳再建、それこそM・R・Aである……』

と柔和な中にも科学者らしいきびしさをこめて語るのであつた。つぎに立つたのは、フランスの元社会党婦人部長だつたと

いうイレース・ロール夫人であつた。夫君は港湾労働組合の指導者のことであつた。最近この一千年来不和、対立を続けて来た、ドイツとフランスの間に、融和のきざしがみえて来たが、そのきづかけをつくつたのが、ロール夫人だという。ロール夫人はドイツ軍に占領されていた当時さんざんひどい目にあわされ、以来とくにドイツ人をうらむようになったという。ところがM・R・Aの運動に入つてから、こうしてフランス人のドイツ人を憎む心によつて、両国の平和がもたらされないのでと考へ、ドイツに行つて、われわれは今までドイツ人を憎んでいた、それは悪いことだつた、あやまるから許してくれとドイツ人達の集つたところで演説をした。この演説はドイツ人を驚ろかせた。それがきづかけとなつて、ドイツとフランスの間に、交友的な関係が育つていったというのである。

ロール夫人が、力強い言葉で家庭の婦人のあり方について語

るフランス語に耳をかたむけてゐる間に、午前中のミーティングは終りに近ずいてゐた。

芝居は武器

昼食にバスをつらねてホテルに帰ることになつた。食堂でたまたまドイツのルール地方の炭鉱会社の重役だという、フォン・フェルセンさんと同席になつた。がつしりした体格のフォン・フェルセンさんは炭鉱技術者上りで、いまは従業員四千人の炭鉱を預つてゐるという。

そんなフォン・フェルセンさんの話をききながら、食事を終り、連れだつてホテルの庭におりる。庭は湖に面して、美しい芝生がしいてある。湖の対岸の若葉の山々のけむるような美しさ五月晴の空気のすがすがしき『ラプリー・カントリー、ラプリー・カントリー』

と太陽のめぐまれないドイツから来たフォン・フェルセンさんは嘆息をあげるのであつた。

この大会には、いままで紹介した人のほか欧米からはカナダ大使夫妻、ノルウェー代表も来ており、アジアではパキスタン、タイ国、セイロン、ビルマ、韓国、台湾、ベトナム、イ

ンドネシヤ、ニューギニヤ、アフリカ、オーストラリアの諸国の代表が参会してゐるが、それらの人々が、さんざんごご、この美しい景色を楽しんでゐた。

午後三時から、ミーティングが再開され、日本の住友吉左衛門さんの演説からはじまる。ついでフイリピン代表、セイロン代表がこもごも立つ。

夜は別稿の渋沢さん達の劇、「光の矢」が滋賀会館大講堂で上演された。上演に先立つて、各国の代表が見物に集つた市民達に三井高維さんから紹介された。広い劇場内は大津市民で満員であつた。

M・R・Aではこのような芝居をつくつて、同志で上演してみせることを、大きな「武器」としてゐるようである。

翌日も同じような会合がくりかえされ、夜は「明日への道」という芝居が上演された。これは日本の青年団員が百名ほど、アメリカM・R・Aの本きよともいふべきミシガン州のマキノに招かれたとき、その内の幾人かの人によつて、つくられたものだという。住友吉左衛門さんも出演したが、この芝居のことは略そう。

ソフト・タッチで…ハイ・ルック

新 織 維



アロンは東邦レーヨンが独自の研究によって完成した純国産の強力アセテートです。

